

ることを示した。

お茶の水女子大学大学院人間文化研究科

博士（人文科学） 松嶋（岸野） 麻衣

「小学校の授業における学習者アイデンティティに向けての指導一低・中学年の授業観察と教師インタビューから一」

子どもが授業で期待される振る舞い方を自覚し自分を生徒として見なせるようになることを学習者アイデンティティとし、教師の指導の特徴を低・中学年の授業観察とインタビューから検討した。教師は課題遂行や授業参加という学習活動と他者・自己理解や関係構築という人間関係とを統合して指導していた。具体的行為への指導から学級の倫理的規範の提示へという学年の特徴も見られた。子どもへの指導と表裏一体に教師の専門性の向上も生じていた。

お茶の水女子大学大学院人間文化研究科

博士（人文科学） 翟 宇華

「中学生の学校忌避感および対人関係に関する日中比較研究」

本研究は学校忌避感を抑制する要因を中心に日本と中国の中学生の差異について検討を行ったものである。その結果、日本の中学生にとって、「友人への適応」は学校忌避感の抑制に最も強い影響を与えているが、中国の中学生の場合、友人への適応よりも、「教師への適応」が生徒たちの学校忌避感を抑制するのに最も影響力があることが見出された。さらに、不登校問題を未然に防ぐため、文化や歴史という背景も視野に入れ、学校現場で配慮すべき観点を論じた。

東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科

博士（教育学） 中道 圭人

「幼児の演繹推論とその発達的变化」

幼児の演繹推論やそれに関連する諸要因を検討した。本研究の結果、幼児の演繹推論がさまざまな文脈によって促進されることや、その促進効果は年齢発達によって異なることが示された。また、幼児の演繹推論がワーキングメモリや抑制制御によって規定されており、その関連は発達的に変化することが示された。さらに本研究では、これらの結果や従来の研究結果を説明できるような発達のモデルを提案した。

東京工業大学大学院社会理工学研究科

博士（学術） 島本 好平

「体育の授業におけるスポーツ経験が大学生のライフス

キルに与える影響」

体育の授業におけるスポーツ経験のライフスキルへの影響に着目し、両者を多次的に評価する尺度を開発しながら、授業参加の目的意識および運動部所属の有無という個人属性をもとに、ライフスキルへの影響を検討した。また、満足感を媒介要因として考慮したモデルの検証結果からは、個人的なスキルでは媒介要因を介した影響が、対人的なスキルでは媒介要因を介さない直接的な影響が重要であることが明らかにされた。

兵庫教育大学連合大学院学校教育学研究科

博士（学校教育学） 松浦 直己

「非行化した少年の諸特性に関する実証的研究—複数の少年院における多面的調査より—」

近年少年事件に関する関心は高まっている。しかしながら非行や逸脱行動に関する実証的研究は稀である。本学位論文では、非行のリスク因子に注目し、他領域にわたって少年院在院生に共通する因子を精査し、因子間どのような関連性が存在するのかを明らかにした。少年院在院生が有する発達的問題性、環境的逆境性はきわめて共通しており、それらの因子間には強い関連性が認められた。また少年院在院生に対して、発達的問題性を直接ターゲットにした治療的アプローチについて実践事例を示して考察した。

広島国際大学大学院総合人間科学研究科

博士（臨床心理学） 清水 健司

「大学生における対人恐怖心性と自己愛傾向との関連」

対人恐怖と自己愛の関連について有効な枠組みを提示した岡野（1998）モデルに焦点を当てて、2概念の相互関係における実証可能性に言及することを目的とした。

青年期心性である対人恐怖心性と自己愛傾向を重要指標として、大学生を対象とした調査研究を行った。そして、岡野（1998）に沿った実証的モデルである対人恐怖心性-自己愛傾向2次元モデルを作成して、導出される5類型についての詳細な検討を行った。

九州大学大学院人間環境学府

博士（心理学） 高垣 マユミ

「認知的／社会的文脈による学習環境のデザインのもとの概念変化のメカニズムの解明」

科学的探究学習において、カリキュラムの特殊性・領域固有の先行概念・認知を促す学習ツール・発達段階等の「認知的文脈」と、教師の足場作り・他者とのやりとり・参加者の構造等の「社会的文脈」とを統合した学習環境をデザインした。この学習環境下で、個人内におい